

LUXMAN

MONAURAL POWER AMPLIFIER

B-1000f

このたびは、ラックスマンのモノラル・パワーアンプリファイヤー B-1000fをお求めいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前にこのオーナーズマニュアルをよくお読みになり、正しくお使いいただくことで本機の性能が十分に発揮され最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただけることと思います。

なお、お読みになった後は、保証書・安全上のご注意と共に大切に保管してください。

目 次

| | |
|-----------------------------|----|
| 使用上の注意 | 3 |
| 各部の名称と用途 | 4 |
| 接続図/接続方法 | 10 |
| B-1000f BLOCK DIAGRAM | 13 |
| 規格 | 14 |
| アフターサービスと品質保証について | 15 |
| 修理に出される前に | 16 |

使用上の注意

アンプの置き場所について

換気や放熱が十分行われる場所に設置してください。

とくに、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなどの高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

スピーカー接続時のご注意

スピーカー・システムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子のところで、⊕⊖間がショートすることのないよう十分に注意してください。

ショートとしたままアンプに大信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

入力機器接続時のご注意

本機とプリアンプまたはコントロールアンプを接続するときには、本機の電源スイッチを必ず切っておいてください。

本機に電源が入っていると、大きな雑音が発生することがあります。

また、本機の入力端子に差し込むピンプラグはしっかりと差し込んでください。プリアンプまたはコントロールアンプの入力端子に差し込むピンプラグも同様です。

ピンプラグのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N比が悪化する原因になります。

保護回路について

本機にはアンプやスピーカー保護のために、過電流検出・異常高温検出・DCドリフト検出による保護回路を設けています。この保護回路が動作した場合、入力への信号とスピーカー端子への出力を断ち切るとともに、オペレーション・インジケータを赤色に点灯させ、本機がミュート状態に入ったことを表示します。そして、保護回路が動作した原因が消滅すると、オペレーション・インジケータが青色に点灯し、動作状態に復帰します。

保護回路がたびたび動作するときは、弊社サービスセンターにご相談ください。

また、部品破壊などの致命的な異常については電源スイッチを自動的に切断します。こ

の場合、再び電源スイッチをオンにしないでください。ただちに弊社サービスセンターにご相談ください。

アンプ電源 ON 後すぐには音が出ません

本機には、電源オン後アンプが安定した状態になるまでの間、入力回路および出力回路を切り離すためのタイム・ミュート回路が組み込まれていて、オペレーション・インジケータが赤色に点灯して準備動作中であることを示します。

このタイム・ミュート回路が動作している間にコントロールアンプなどの音量ボリュームを大きく右に回していると、動作状態になったときに急に大きな音が出てくることになります。

コントロールアンプなどの音量ボリュームは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてからお好みの音量にセットしてください。

修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店もしくはお近くの弊社サービスセンターへご依頼ください。

お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れのひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。

なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

安全上のご注意



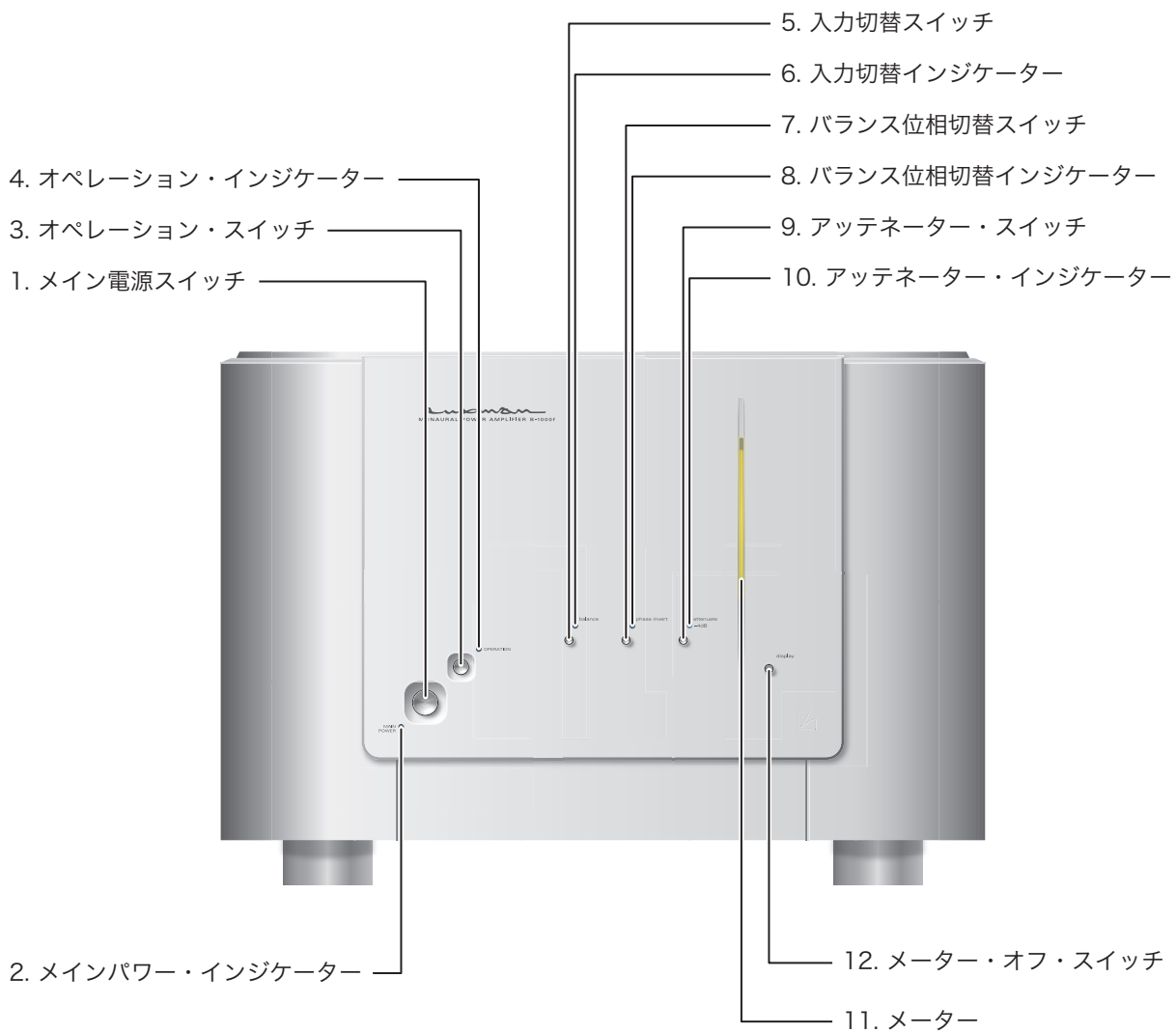
警告



本機は非常に重いので開梱や持ち運び、設置は、必ず4人以上で行ってください。けがの原因となることがあります。

各部の名称と用途

フロントパネル



各部の名称と用途

1. メイン電源スイッチ / MAIN POWER

メイン電源を ON/OFF するスイッチです。

このスイッチを ON にすると、スタンバイ状態となり、OFF にするとシャットダウン状態になります。

配線、接続時には必ずこのスイッチを OFF にしてください。

2. メインパワー・インジケータ / MAIN POWER

メイン電源を ON にすると青色に点灯し、スタンバイ状態であることを表示します。

メイン電源を OFF にすると消灯します。

3. オペレーション・スイッチ / OPERATION

スタンバイ状態からこのスイッチを ON にすると、動作状態となり、

このスイッチを OFF にすると、スタンバイ状態となります。

4. オペレーション・インジケータ / OPERATION

オペレーション・スイッチを ON にすると、一定時間の間ミュート回路が作動し音がでません。

このミュート時間の間は、赤色に点灯します。その後、一定の準備動作時間が終了すると、青色に点灯し動作状態になったことを表示します。

オペレーション・スイッチを OFF にすると、青色から赤色に変化し徐々に消灯します。

5. 入力切替スイッチ / balance

リアパネルにあるコアキシャル入力とバランス入力を切り替えるスイッチです。

: OFF コアキシャル入力を選択します。

: ON バランス入力を選択します。

このスイッチを切り替えると入力ミュート回路が作動し、約 1 秒間、音がでません。

6. 入力切替インジケータ / balance

入力切替スイッチを ON にすると青色に点灯し、バランスを選択したことを表示します。

入力切替スイッチを OFF にし、コアキシャル入力を選択すると消灯します。

7. バランス位相切替スイッチ / phase invert

リアパネルにあるバランス入力の位相を切り替えるスイッチです。

: OFF / ノーマル 1. GROUND

2. COLD ⊖

3. HOT ⊕

: ON / インバート 1. GROUND

2. HOT ⊕

3. COLD ⊖

このスイッチを切り替えると入力ミュート回路が作動し、約 1 秒間、音がでません。

8. バランス位相切替インジケータ／ phase invert

バランス位相切替スイッチを ON にすると青色に点灯し、インバートを選択したことを表示します。

バランス位相切替スイッチを OFF にし、ノーマルを選択すると消灯します。

9. アッテネーター・スイッチ／ attenuate

本機は、通常 1V 入力で 250W / 8Ω ですが、このスイッチを ON にすると入力レベルが減衰し、1V 入力で 100W / 8Ω とすることができます。ご使用のパワーアンプのゲインを 100W / 8Ω にそろえて使用する場合に便利な機能です。

: OFF 通常の 1V で 250W / 8Ω 出力になります。

: ON 1V 入力で 100W / 8Ω 出力になります。

このスイッチを切り替えると入力ミュート回路が作動し、約 1 秒間、音がでません。

10. アッテネーター・インジケータ／ attenuate

アッテネーター・スイッチを ON にすると青色に点灯し、100W / 8Ω を選択したことを表示します。

アッテネーター・スイッチを OFF にし、通常の 250W / 8Ω を選択すると消灯します。

11. メーター

スピーカー端子の出力を dB で表示するレベルメーターです。

定格出力レベル 44.7Vrms を 0dB とし、2dB ステップで +2dB ~ -72dB の出力レベルを表示します。

また、メータースリット全体を淡く照らすイルミネーションを装備しています。

12. メーター・オフ・スイッチ／ display

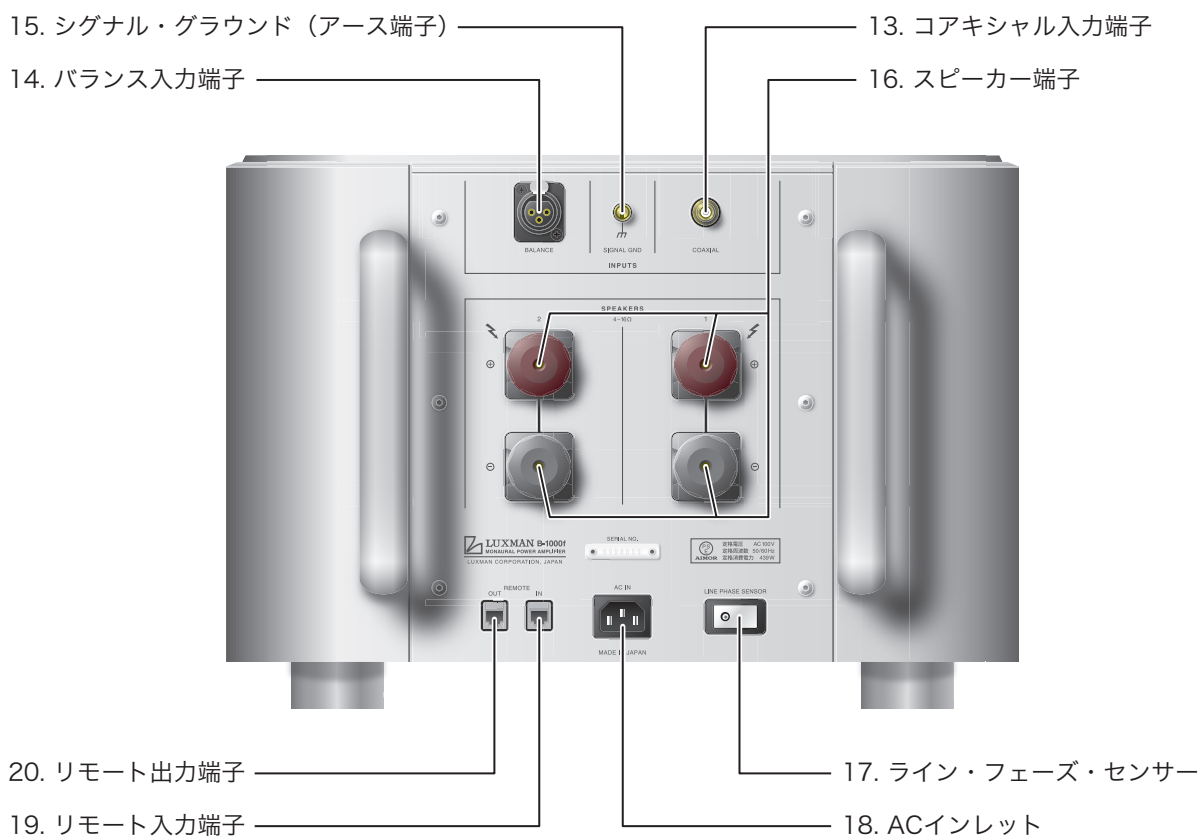
メーターとイルミネーションを消灯したいときには、このスイッチを ON にします。

: OFF イルミネーションが点灯し、メーターが動作します。

: ON イルミネーションが消灯し、メーターも止まります。

各部の名称と用途

リアパネル



各部の名称と用途

13. コアキシャル入力端子 / INPUTS (COAXIAL)

コアキシャル入力端子です。

コントロールアンプなどからのアンバランス出力をこの端子に接続してください。

14. バランス入力端子 / INPUTS (BALANCE)

キャノンコネクターによるバランス型入力端子です。

コントロールアンプなどからのバランス出力をこの端子に接続してください。

15. シグナル・グラウンド (アース端子) / SIGNAL GND

本機に接続する機器のアース用端子です。

この端子は、他の機器を接続した場合の雑音低減をはかるためのもので、安全のためのアースではありません。

16. スピーカー端子 / SPEAKERS (4-16Ω)

この端子にスピーカー・システムに接続したスピーカー・ケーブルを接続します。

スピーカー・システムの ⊕ 側端子を本機のスピーカー端子の ⊕ 側(赤)端子に、スピーカー・システムの ⊖ 側端子を本機のスピーカー端子の ⊖ 側(黒)端子に、確実に接続してください。

本機には、バイワイヤリングのとき簡単に接続ができるように 2 系統 (上下一対) のスピーカー端子が設けてあります。2 系統の端子は銅板で平行接続されているので、通常の接続では左右どちらの系統を使用しても同じ音質が得られ、問題はありません。

なお、本機に接続されるスピーカーは、4Ω～16Ωのインピーダンスのものがご使用になれます。バイワイヤリングのときは、接続したスピーカーの総合インピーダンスが 4Ω～16Ωとなりますのでご注意ください。

17. ライン・フェーズ・センサー / LINE PHASE SENSOR

電源ケーブルを AC コンセントに差し込むときに、電源の極性を確認するセンサーとインジケータです。

電源ケーブルを本機の AC インレットと AC コンセントに差し込んだ後に指でセンサーにかかるく触れ、インジケータが消えたままであれば正常な極性です。インジケータが点灯する場合は、AC コンセントへの電源プラグの差し込みを逆にしてください。

電源極性のチェックは、他の機器からの影響を取り除くため、他の機器との接続前におこなってください。

また、マンションなど、電源がフローティングされている場合は、極性が変化しないこともあります。このような場合は、どちらの極性にしてもさしつかえありません。

18. AC インレット / AC IN

付属の電源ケーブルを接続します。

電源は AC100V 家庭用コンセントをご使用ください。

19. リモート入力端子 / REMOTE IN

専用リモート出力端子のあるコントロールアンプ (C-8f など) と専用リモート・ケーブルで接続すると、

コントロールアンプの電源スイッチに連動して本機のオペレーションの ON/OFF が可能になります。

また、B-1000f のリモート出力端子と専用リモート・ケーブルで接続すると、供給側の B-1000f のオペレーション・スイッチに連動して本機のオペレーションの ON/OFF が可能になります。

20. リモート出力端子／REMOTE OUT

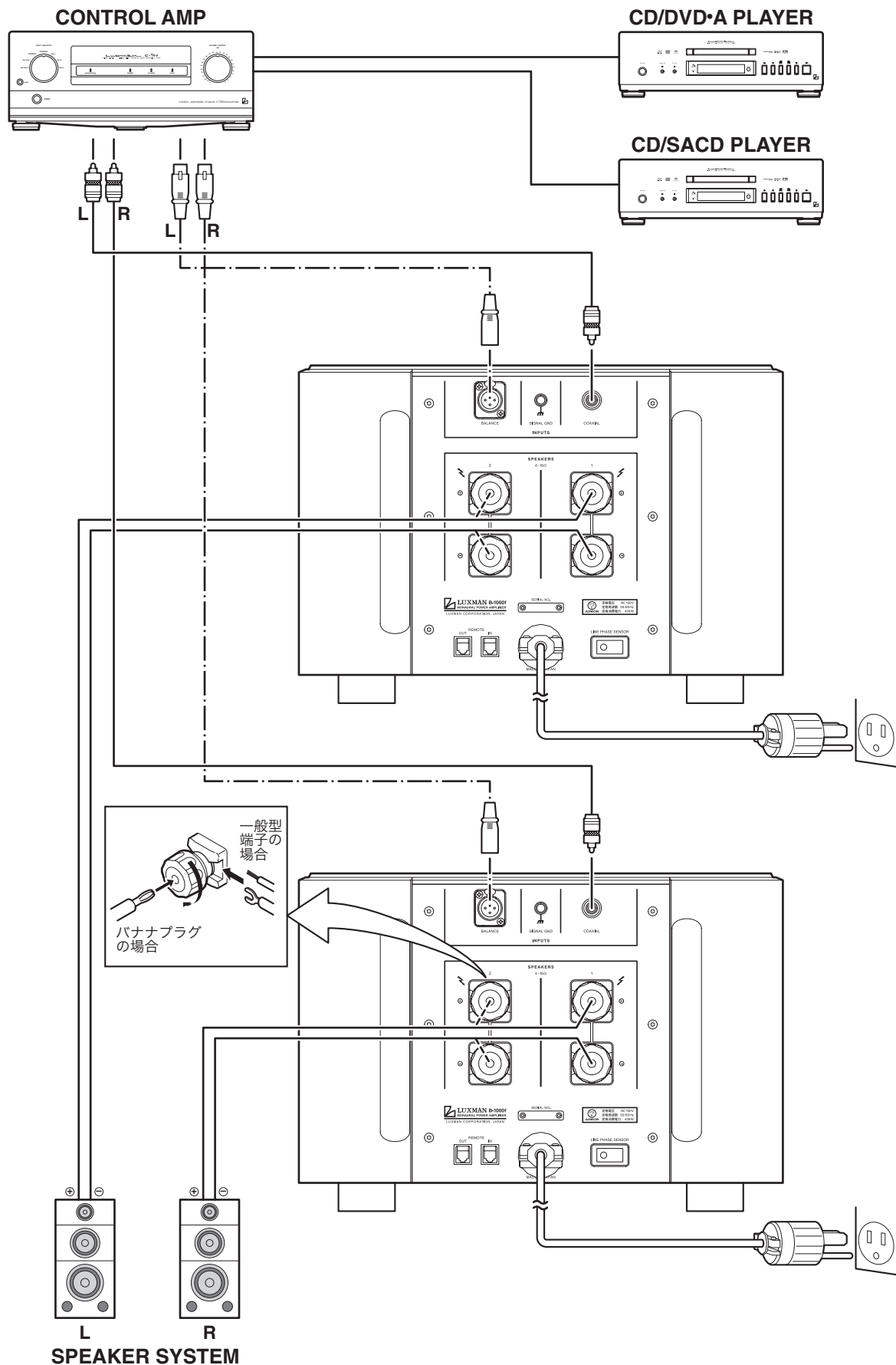
専用リモート入力端子のあるパワーアンプ(M-8f など)と専用リモート・ケーブルで接続すると、本機のオペレーション・スイッチに連動して受給側パワーアンプの電源の ON/OFF が可能になります。

また、B-1000f のリモート入力端子と専用リモート・ケーブルで接続すると、本機のオペレーション・スイッチに連動して受給側 B-1000f のオペレーションの ON/OFF が可能になります。数台の B-1000f をこのように専用リモート・ケーブルで接続していくと、最初の供給側 B-1000f のオペレーション・スイッチで全ての B-1000f のオペレーション ON/OFF が可能になります。

リモート操作をおこなう場合は、メイン電源スイッチを ON にし、スタンバイ状態にしてください。

接続図

通常ステレオ再生



接続方法

接続する前に

他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック側（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V コンセントに差し込んでください。

電源ケーブルを差し込むときには、ライン・フェーズ・センサーを指先で軽く触れ、インジケータが消える方向に差し込んでください。

マンションなどのコンセントでは、AC プラグを差し替えても点灯したまま、消えたままのことがあります。この場合、どちらの方向でもかまいません。

スピーカーの接続

左チャンネルと右チャンネルのスピーカー・システムが1組となって通常のステレオ再生となります。

B-1000f は、モノラル・パワーアンプですので、ステレオ再生を行うためには、2台以上の B-1000f が必要となります。

本機にコントロールアンプの出力端子の左チャンネルを接続した場合には、本機のスピーカー端子に左側のスピーカー・システムを、コントロールアンプの出力端子の右チャンネルを接続した場合には、本機のスピーカー端子に右側のスピーカー・システムを接続します。

本機のスピーカー端子には、赤（⊕側）と黒（⊖側）があり、スピーカー・システムの ⊕ 端子を本機のスピーカー端子の赤（⊕側）端子に、スピーカー・システムの ⊖ 端子を本機のスピーカー端子の黒（⊖側）端子に、確実に接続してください。

このとき、左右スピーカー・システム的一方だけ ⊕ 端子と ⊖ 端子を逆に接続すると、左右のスピーカー・システムから再生される音波の位相が逆になり、低音が減少したり、音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなりますので十分な注意が必要です。

本機は、バイワイヤリング接続のときスピーカー端子部分での接続を容易にするため上下一対のスピーカー端子を2系統装備しています。この2系統のスピーカー端子は、赤（⊕側）端子、黒（⊖側）端子ともに平行に配線されているので、左右の赤（⊕側）端子、黒（⊖側）端子のクロスがけ使用をしないかぎり、低域ケーブルと高域ケーブルをスピーカー端子1、スピーカー端子2のどちらかに決めて接続する必要はありません。お好みのスピーカー端子をご使用ください。通常のステレオ接続でも同様で、どちらの系統のスピーカー端子を使用しても問題はありません。

ただし、左右の赤（⊕側）端子、黒（⊖側）端子のクロスがけ使用だけはおやめください。

入力端子とコントロールアンプの接続

コントロールアンプの出力端子と本機の入力端子の間を、ピンプラグ・ケーブルあるいはバランス・ケーブルで接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように十分注意し接続してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

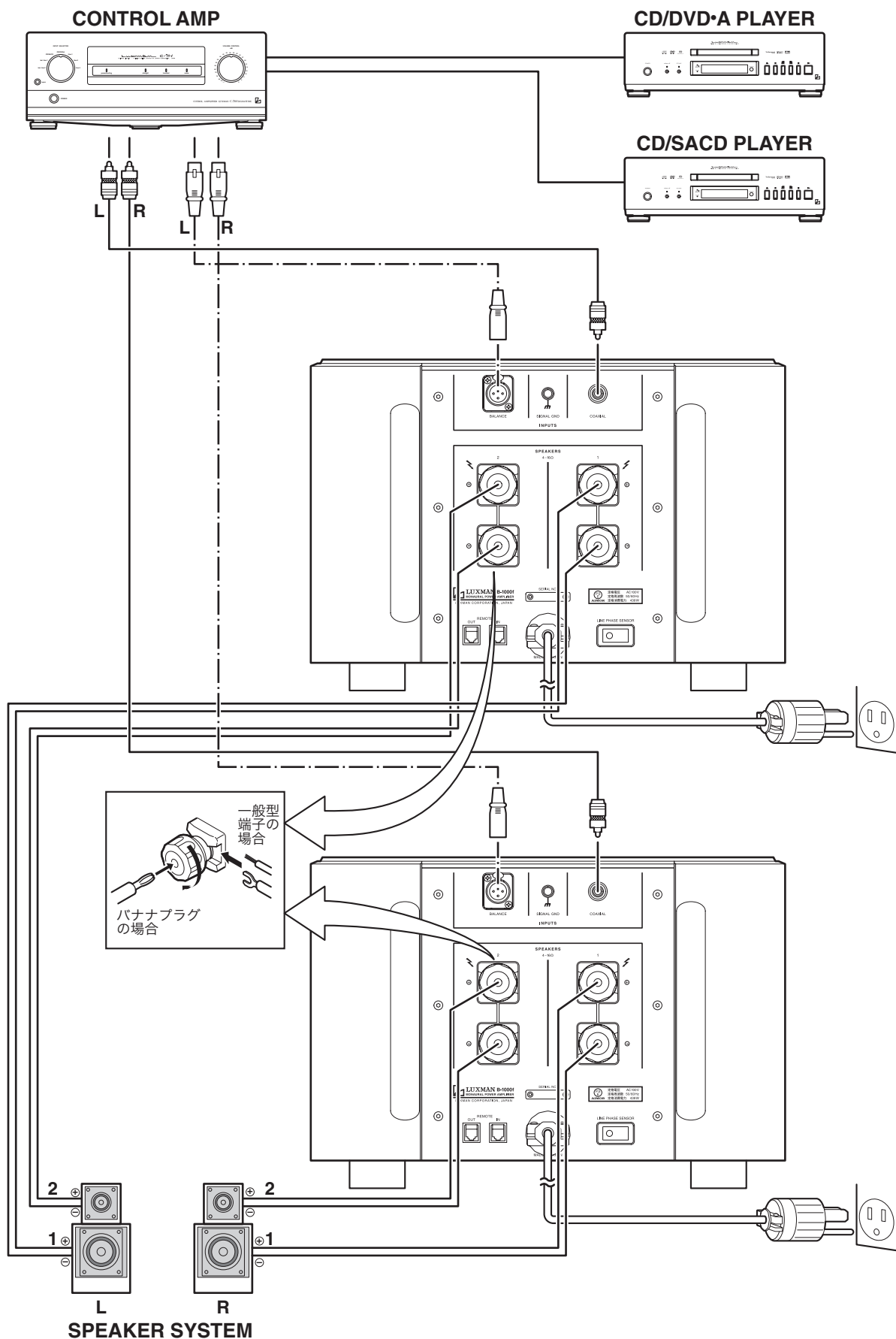
また、ピンプラグ・ケーブルをご使用の場合は、ピンプラグ・ケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

本機と接続するコントロールアンプの出力インピーダンスが十分に低い場合は、接続ケーブルの長さを特別気にする必要はありませんが、出力インピーダンスの高いコントロールアンプと組み合わせる場合は、不必要な高域の減衰を避ける為に、できるだけ短い接続ケーブルをお使いになることをおすすめします。

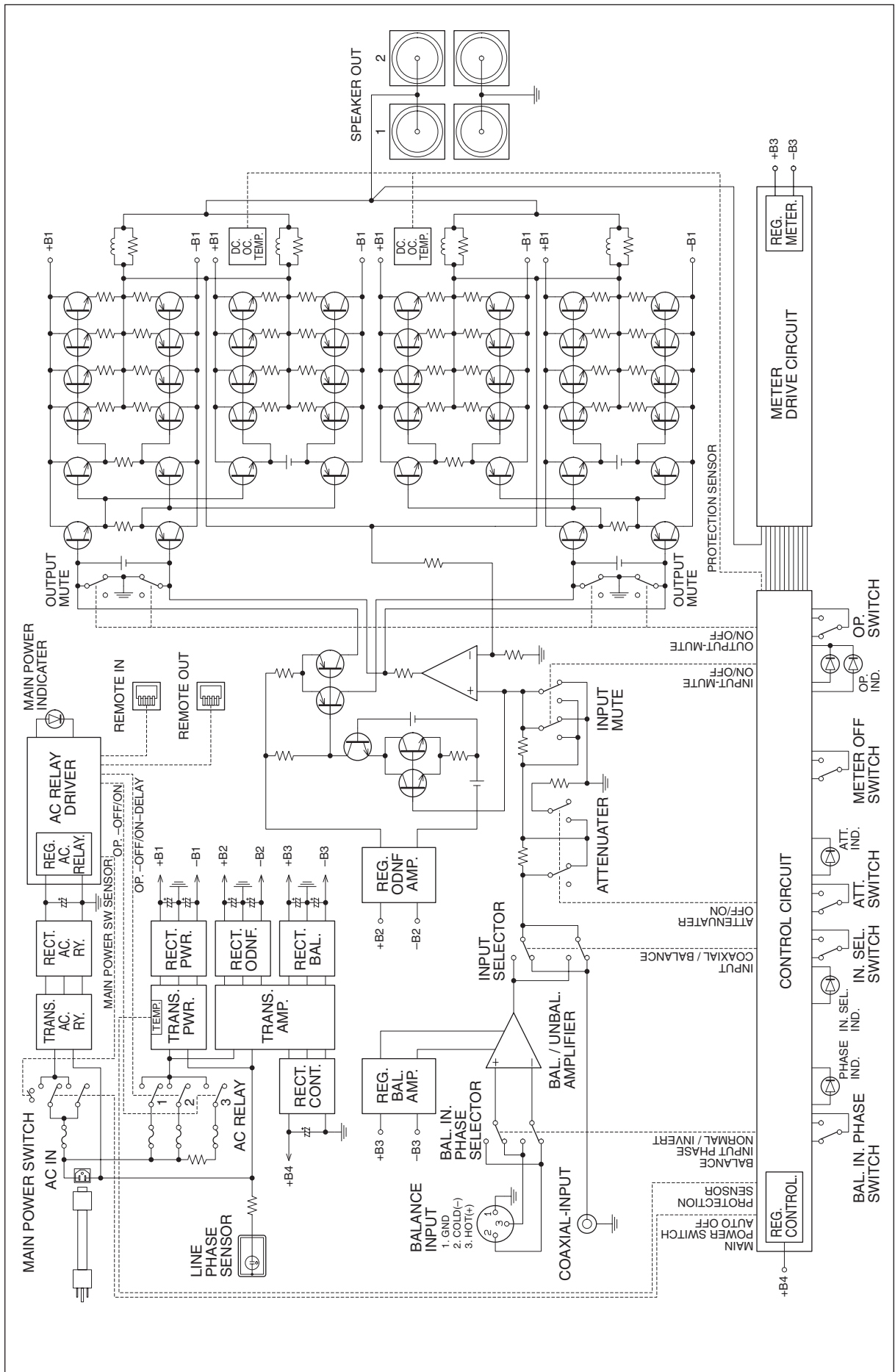
過大入力からアンプとスピーカーを保護するために、本機とコントロールアンプを接続する場合は、本機のメイン電源スイッチを OFF にするかオペレーション・スイッチを OFF にしてください。接続完了後に正しく接続されていることを確認して、本機を動作状態にしてください。

接続図

バイワイヤリング・ステレオ再生



B-1000f BLOCK DIAGRAM



規 格

| | |
|-----------|--|
| 連続定格出力 | 250 W / 負荷 8 Ω 500 W / 負荷 4 Ω |
| 瞬時最大出力 | 1000 W / 負荷 2 Ω 2000 W / 負荷 1 Ω |
| 入力感度 | 1 V / 250 W 負荷 8 Ω (GAIN = 33 dB) |
| 入力インピーダンス | COAXIAL 51 kΩ / ATT. OFF 50 kΩ / ATT. ON BALANCE 67 kΩ |
| 全高調波歪 | 0.007 % / 1 kHz · 250 W 負荷 8 Ω 0.15 % / 20 Hz ~ 20 kHz · 250 W 負荷 8 Ω |
| 周波数特性 | +0, -0.1 dB / 20 Hz ~ 20 kHz +0, -1.5 dB / DC ~ 100 kHz +0, -3.0 dB / DC ~ 150 kHz |
| S/N 比 | 118 dB (IHF-A) |
| 付属装置 | メイン電源スイッチ メインパワー・インジケータ オペレーション・スイッチ オペレーション・インジケータ 入力切替スイッチ 入力切替インジケータ バランス入力位相切替スイッチ バランス入力位相切替インジケータ アッテネーター・スイッチ アッテネーター・インジケータ レベルメーター メーター・オフ・スイッチ コアキシャル入力端子 バランス入力端子 シグナル・グラウンド端子 スピーカー端子 2 系統 リモート入力端子 リモート出力端子 ライン・フェーズ・センサー AC インレット |
| 付属品 | 電源ケーブル 専用リモート・ケーブル オーナーズマニュアル 保証登録書 安全上のご注意 |
| 消費電力 | 439 W (電気用品安全法による規定) 232 W (無信号時) 0.7 W (スタンバイ時) |
| 電源電圧 | AC 100 V (50/60 Hz) |
| 最大外形寸法 | 428 (W) × 295 (H) × 592 (D) mm |
| 重量 | 64 kg |

※ 規格および外観は予告なく変更することがあります。

アフターサービスと品質保証について

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービスセンターまたはお求めの販売店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。が、ご容赦ください。

B-1000fの保証期間は、購入日より起算して5年間です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。

保証登録書は、本機のパッキングケース内に入っていますので、お買い上げの販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。後日、保証書を発送させていただきます。

保証期間内の修理お申し付けの節は、必ず弊社発行の保証書を添えて下さい。保証期間外、保証書がない場合の修理については実費でお引き受けいたします。

修理に出される前に

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通りご確認ください。

故障の原因がわからない場合は、弊社サービスセンター、もしくはお求めの販売店へお問い合わせください。

なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくとも点検代、出張費などを載くことがあります。

| 症 状 | 原 因 | 対 策 |
|--|--|--|
| メイン電源スイッチを押しても電源が入らない。 メインパワー・インジケータが点灯しない。 | <ul style="list-style-type: none"> 電源プラグがACコンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。 電源プラグがACインレットから外れているか、確実に差し込まれていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 電源プラグをACコンセントへ確実に差し込む。 電源プラグをACインレットへ確実に差し込む。 |
| 電源が入り、動作状態になり、オペレーション・インジケータも青色に点灯するが、音がでない。 | <ul style="list-style-type: none"> 接続した入力端子と入力切替スイッチの設定があっていない。 コントロールアンプの出力設定があっていない。 接続が確実に行われていない。 コントロールアンプのボリューム・コントロールが絞り切られている。 | <ul style="list-style-type: none"> コアキシャル入力に接続した場合は、入力切替スイッチをコアキシャルに、バランス入力に接続した場合は、入力切替スイッチをバランスにあわせる。 コアキシャル入力に接続した場合は、コントロールアンプの出力設定をコアキシャルに、バランス入力に接続した場合は、コントロールアンプの出力設定をバランスにあわせる。 接続を確実に行う。 コントロールアンプのボリューム・コントロールをお好みの音量に調節する。 |
| 音はでるが、音量が小さい。 | <ul style="list-style-type: none"> アッテネターがONになっている。 | <ul style="list-style-type: none"> アッテネターをOFFにする。 |
| メーターが動作しない。 | <ul style="list-style-type: none"> メーター・オフ・スイッチがONになっている。 | <ul style="list-style-type: none"> メーター・オフ・スイッチをOFFにする。 |
| ハム音 (ブーン、ジーというノイズ) ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 接続ケーブルのアース側が接触していない。 他機器の電源トランスからの誘導ノイズを受けている。 入力ケーブルとスピーカー・ケーブルが電源ケーブルに接近しすぎている。 | <ul style="list-style-type: none"> 接続を確実に行う。 他機器から離して設置する。別系統のコンセントにつなぎかえる。 入力ケーブルとスピーカー・ケーブルを電源ケーブルから離す。 |